

特色ある教育実践におけるフィールドワークプログラム

背景・目的

本研究プログラムは、教員を志望する学生が特色ある実践への視察・参加をとおして、教育的営為を理解し、自らの実践やキャリア形成に役立てていくシステムの構築を目的とする。

今日の多様で流動的な教育現場においては、通常の教員養成課程が提供するカリキュラムのほかに、現場での体験的理解とその結果得られた経験知(体験知)の活用が重要な課題となる。そこで、本研究では、先駆的で特色ある実践や問題事象の場への視察・参加による学生の教育的視野の拡張と、実践や事象の体験をもとにした実践の創出、教職従事者として意識の開発、就業に向けた動機付けを必須要素ととらえ、それらを推進していくための教育システムの構築と実証検証を目指すこととした。

本年度については、2月の中旬(1泊2日)に、千葉・埼玉の各県、政令指定都市での小学校見学のほか、各地で活躍している学科卒業生との情報(意見)交換会を設定し、より具体的に現場を理解することとした。また、実際に地域の学校以外の教育・文化施設にも赴き、地域の教育により広くふれるフィールドワークも実施した。

実施内容

1. 学校事情情報交換会

プログラム1では、本学科卒業生で当該地域において教職に従事している先輩たちとの意見交換を行った。各地域の学校情報については、プログラム2の学校見学においても、情報の収集が可能であったが、直接、採用1～2年の教員に様子を聞くことで、より具体的で、生活に密着した情報を獲得することができたといえる。これは、ライフプランを構築する際に欠かすこ

とのできない情報であり、採用後の生活設計を考えるきっかけとなったことは意義あることといえる。

2. 小学校見学・体験研修

プログラム2では、千葉・埼玉・神奈川県下の3小学校を見学した。各学校では、校長先生から講話をいただき、全学年の授業を参観するとともに、校内の施設を見学した。また、昼には、学級に入り子供たちと給食をともにし、ふれあう機会を得ることができた。

午後には、新卒の教員からアドバイスを、また、教育委員会の担当者から教育事情についての説明をいただいた。限られた時間ではあったが、実際に学校現場に身を置いて、理解を深めることができ、教職への意欲を喚起する機会となったようである。

3. 教育施設視察

今回は、地域の文化施設での見学や施設が行うワークショップへの参加、町歩きをとおして、より地域を理解するプログラムも実施した。

結果及び考察

本プログラムが、参加学生の教職教養の深化とキャリア形成に大きく寄与していることは、実施後の成果物や取組の様子から容易に確認できる。

今後は、これまで見てきた実施の時期及び期間、地域、形態など、1年をベースにした評価に加え、学科の4年間の教員養成カリキュラムにおける働きを検証しつつ、全体的な位置づけを検討し、より効果的なプログラムにして行く必要がある。